

令和3年度第1回小諸市総合計画審議会 議事概要

令和3年11月10日（水）開催

開催日時 令和3年11月10日(水)午後1時30分から

開催場所 小諸市役所4階 第1、第2委員会室

出席委員 西村廣一、佐藤英人、山下千鶴子、小山田武、依田勝彦、鈴木隆、古屋昌和、
依田孝彦、河野敦、後藤理恵、金山裕美(途中から欠席)
以上11名

(欠席委員:岩本秀幸、以上1名)

1 開会（進行：企画課長）

2 委嘱書の交付

（各委員へ委嘱書の交付）

3 市長あいさつ

（市長）

本日は大変お忙しいところ、令和3年度の第1回総合計画審議会にご出席を賜り、誠に感謝申し上げます。先ほど、それぞれの方に委嘱書を交付させていただきました。これから2年間よろしくお願ひしたい。本来であれば8月に、皆様に委嘱をして、ご審議をいただく予定であったが、ご案内の通りコロナの感染拡大ということもあり、今頃になってしまったことご理解いただきたい。今の接種状況であるが、新規の陽性者は9月17日以降、小諸市では出ていない。接種状況は、11月8日現在12歳以上の接種対象者の1回目が終了している人が91.0%。2回目が82.5%。65歳以上の高齢者は95%、1回目のみ終わった方は94.3%。職域接種を受けた方々がまだこの中にはカウントされていないことを考えると90%以上の方が2回の接種を終えているかと思う。小諸版ウエルネスシティを昨年掲げ、政策や考え方、またSDGsの取り組み方などが書かれている。少子高齢化人口減少の中で、今後も人口減少が続いていくと、市の体力がなくなり、持続可能な自治体にならない。よりよく生きるためのライフスタイルのあり方、これを具現化していくためには、小諸市の総合計画にある6つの政策において、健全健康な状態にするのが小諸版ウエルネスシティであり、そこにサードプレイスという考え方を設けて、小諸が持っているお宝によって癒され、自己実現ができるようなまちにしていく。さらにそこにSDGsという考え方を組み入れている。5月に株式会社カクイチ、事業構想大学院大学の三者協定を結んだ。カクイチから5000万円をいただき、Ma a S、農業振興について研究を行った。また、渡辺パイプ株式会社から1000万円をいただき、これから5年間に渡って、1000万ずつご寄附をいただくことになっており、環境や観光に関する様々な施策に取り組んでいく予定である。移住者も増えており、全国的には店舗がどんどん閉鎖していくところが多い中、小諸市は今、中心市街地の出店が増えており、長野県内においてもここまで出店しているところはないと思う。コロナ禍が収束しつつあった10月頃からは、秋の市民まつりという形で、色々なイベントがあり、多くの市民の方、市外の方に訪れていただいた。そういう様々な動きが出てきた小諸市であるので、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、小諸市が持続可能な自治体であり続けるための施策を実施していきたいと思う。皆様にはお世話になるが、よろしくお願ひ申し上げます。

4 自己紹介

(各委員、事務局自己紹介)

5 審議会の任務

(事務局より資料に沿って説明)

6 正副会長の選出について

(事務局)

審議会の会長並びに副会長については、委員の皆様の互選によるものとなっている。委員から提案はあるか。

(委員からの提案なし)

(事務局)

提案がないため、事務局案として、会長に西村廣一委員、副会長に佐藤英人委員をご提案申し上げます。

(全員賛成により承認)

(事務局)

それでは、西村会長より、ご挨拶をお願いしたい。

(西村会長)

一堂に会して審議会を開催することがなかなかできなかったが、本日こうして開催できることについて、市長、事務局の方々のご尽力に改めて感謝する。先ほど市長からお話があったが、カクイチや渡辺パイプからの応援のこと、また、移住者も増えているとのことであり、私も小諸には新しい動き・風が吹いていると感じている。ぜひこの動き・風を大切にしてください、さらに大きなものに繋がるよう、皆様の熱い思いを生かしながら進めていただきたい。令和5年の7月までよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

次に、佐藤副会長よりご挨拶をお願いしたい。

(佐藤副会長)

私は若い時から、小諸という大好きな街を何とかしたいと考えており、様々な事に関わってきたが、最近は小諸が驚くほどに変わってきていると感じている。また、移住者や訪れた

方が小諸に住みたいと言っただけなのは大変嬉しいことである。次の世代に続いていくようなまちづくりとなるよう、今後も関わり、参加させていただきたい。よろしく願い申し上げます。

(事務局)

協議事項からの進行につきましては、西村会長にお願い申し上げます。

7 協議事項

(1) 総合計画について

(西村会長)

総合計画について事務局から説明をお願いします。

(事務局より資料に沿って説明)

(西村会長)

コーディネーター、補足はあるか。

(コーディネーター)

小諸市の総合計画の特徴は3つある。1つ目はその総合計画が最上位の計画であるということ。分野別の計画は無数にあるが、その中でもこの総合計画というのは、最上位の計画として位置づけられている。2つ目は、この総合計画に基づいて、小諸市は行財政運営が行われているということである。全国的に見ると、最上位の計画にも関わらず形骸化しているところが少なくない。小諸市の場合は、この最上位の計画である総合計画に基づいて行財政運営が行われているということである。総合計画にないものは実施できないし、記載されていることが力を入れて進めていく内容になっている。3つ目は、評価は対話でしか評価ができないということである。民間企業の場合は、業績を利益で計ることができるが、行政の場合は民間企業の利益に当たるような指標が簡単には取れない。政策の指標は立てるがそれを見ただけでは簡単には評価できない。よって、審議会や議会などの場で対話をすることによって、その事業がうまくいったのか、うまくいっていないとしたらどうやって改善していったらいいのか、評価していくことになる。

(事務局)

実施計画については、庁内それぞれで評価し、委員の皆さんのご意見をいただく。その後、来年度の実施計画書・予算に反映し、来年の3月議会に提出する流れとなっている。

(2) 財政目標（第 11 次基本計画）について

(事務局)

第 11 次基本計画策定時、新型コロナウイルス感染症対策として、緊急経済対策等事業を優先するため、令和 3 年度当初予算編成の段階においては一時的な財政収支の均衡を容認せざるを得ない状況となっているため、適切な財政目標を立てることは困難であるとし、令和 3 年度に改めて財政目標を立てる予定とした。財政目標として、1 つ目に、基金残高を 40 億円以上とする。2 つ目として、臨時財政対策債を除く市債残高を 150 億円以下とする。3 つ目として、実質公債費比率を 9. 0%以下とする目標を立てさせていただくものである。また、財政目標の運用においては、目標値未達成の場合は、原因分析・目標達成に向けた改善策を本審議会および 9 月定例会へ報告することとする。1 つ目の目標値について、資料において、過去 10 年間の基金残高の推移をお示しする。平均残高は平成 25 年以降減少しており、令和 2 年度の決算では 66 億 5000 万円となっている。2 つ目の目標値について、資料において、過去 10 年間の市債残高の推移をお示しする。3 つ目の目標値について、資料において、過去 10 年間の実質公債費比率の推移をお示しする。実質公債費比率は平成 26 年度以降減少傾向にあり、令和 2 年度決算では 7. 1%となっている。今後、社会保障費の増加、公共施設の長寿命化対策、社会インフラの老朽化対応などを考慮し、過去 10 年間の実質公債費比率の平均値となる 9. 0%以下を目標値とした。昨年、審議会の委員の皆様にも複数回に渡りご審議いただき、小諸市の第 11 次基本計画を策定した。財政目標については、新型コロナウイルスにより、国からも多額の交付金を受け、市としてもコロナ対策事業を集中して実施した。例年とは全く違う財政運営をしており、先行きが不透明であったことから、財政目標の設定を 1 年見送った。今回、その保留としていた財政目標を設定させていただくということである。

(コーディネーター)

実質公債費比率について補足説明をさせていただきたい。簡単に申し上げますと、借金の負担が毎年の予算に対してどれぐらいあるかという指標である。数字が高ければそれだけ負担があるということであり、15%程度が国の基準であるため、9%程度の目標値であれば健全財政であると思われる。

(委員)

基金残高は現在 60 億円程度であり、目標値が 40 億円以上とのことであるが、差額の 20 億円を積極的に使っていくということなのか。また、目標値②の市債残高は現在 200 億円ではないのか。

(事務局)

基金残高の差額である 20 億円を使っていくという目標ではなく、なるべく使わないよう

に基金を残し、最低でも 40 億円は残すという意味である。臨時財政対策債を除く金額であるので、現在 131 億円程度である。

(市長)

小学校の統廃合に関する費用や、インフラの改修費用が今後かかってくる。しかし、公共施設等総合管理計画で、公共施設は縮小していく方針となっている。積極的に市政を進めたいが、余裕があるわけではなく、民間の力をお借りするなどしながら進めていく。これから大型事業が控えているが、基金は最低でも 40 億、市債残高は 150 億円以下を保つことを令和 5 年度までの目標としたい。財政状況は、19 市の中では中間に位置している。

(3) 令和 2 年度施策評価について

【施策 1-1 から 1-3 まで事務局から資料に沿って説明】

(委員)

小中学校の統合に関する進捗状況はどうか。

(事務局)

教育委員で検討会を重ねている。芦原中学校区の 3 校について、統合をしていく方針。美南ガ丘小学校は大規模なので存続予定である。

(委員)

1 月早々に市民説明会を行い、校区について話し合っていく予定である。

(委員)

令和 2 年度実績は新型コロナウイルスの影響をどの程度受けているか。

(事務局)

ミニコンサートの鑑賞者数は、予定の半分程度の実績である。就学旅行や音楽会についても影響が大きかった。黙食や行事の中止などによる子どもたちの心への影響が心配である。

(委員)

県外から移り住んでくる理由にもなるほど学校教育は重要である。学力、体力の数値を全国平均の 100 を超えるようにご尽力いただきたい。また、生涯学習に関することであるが、経営者やリーダーシップを養うための講座の実施や、違う職種で交流する場があったら良いと思う。

(事務局)

支援に力を入れていて、学力向上まで手が足りていないという現状もある。他県の良い取り組みも参考にして取り組んでいきたい。

【施策1-4から1-6まで資料に沿って事務局から説明】

(委員)

レスリングの国民スポーツ大会の開催については、高校生以上だけではなく、小・中学生なども含めて盛り上がるよう取り組んでいただきたい。

(委員)

審議会の女性参画率に関して、要因や課題は何か。

(事務局)

それぞれの審議会ごとに委員の選定基準があることも1つの要因である。女性の参画率が上がるよう引き続き取り組んでいただきたい。団体ごとに委員の決め方はあるが、各団体に女性参画について呼びかけていきたい。

(委員)

旧小諸本陣の解体復原工事の実施後、観光面や活用方法はどのようにしていくのか。また、政策4とも関係している部分が多いため、横串を入れた事業展開をお願いしたい。

(事務局)

旧小諸本陣は、立地的に工事現場を多くの方に見学していただくことは難しいため、復元状況を記録し、皆さんに見ていただこうと考えている。活用方法については、これから検討していく。

【政策2について事務局から資料に沿って説明】

(委員)

人口が減っているのに、ごみが増えてしまっているということだが、世帯数の増加や、それに伴う若い方の負担が関係していると感じる。若い方へのごみの排出に関する説明をどのようにしているのか。また、給食の残食ゼロのような、子どもの教育から親につなげられないか。

(事務局)

スマホでも確認できるように、ホームページでもごみの捨て方を周知している。子どもの時からの分別に関する意識づけは大事であると考えている。世帯数増加は、同一世帯が世帯

分離を行う場合が多い。コロナ禍でマスクやテイクアウトのごみが増えている。

(委員)

太陽光発電施設、富士見町が全域を抑制区域にするとのことである。市内では御牧ヶ原の方で多く建設されているが、条例等により太陽光の規制を強くできないか。

(市長)

国で法律を整備しない限り、市町村長の権限で完全な規制はできない。富士見町の場合は、訴訟を起こされたら負けるのではないかと考えている。化石燃料は削減すべきという意見もあり、国家レベルの議論が必要である。小諸の日照率が高いことが太陽光発電施設建設の要因であるかと思うが、観光や環境的には、太陽光発電施設はプラスにならないとは考えている。

(委員)

帰ってきてほしいまちとして、自然環境はなるべく自然が残るようにお願いしたい。

【政策3について事務局から資料に沿って説明】

(質問・意見なし)

【政策4について事務局から資料に沿って説明】

(委員)

政策4-2に関して、市でコロナの制度設計を急いで行っていただいたことに感謝したい。融資の実態はどうか。また、IT関連やサテライトオフィスに関して検討していることは何かあるか。

(事務局)

昨年度の融資実績は、154件、約22億円である。誘致は工場という従来の考えを変え、今年度、IT関連企業を小諸駅前に誘致し、エンジニアの育成を目的とするスクールを開校した。

【政策5について事務局から資料に沿って説明】

(委員)

施策5-2について、道路改良・改修等、件数で成果指標を出しているが、費用を度外視してよいのか。

(事務局)

道路改良については、申請のあったものについて、市の基準によって評価し、予算を組み、実施している。維持補修については、予算の範囲内で優先順位を決め、実施している。

(委員)

災害で修繕をするのは重要であるが、大杭橋を災害の跡として残すというのはどうか。

(事務局)

国からは、使用しておらず流失している橋は残置ができないと言われている。その旨、地元には説明を行わせていただいた。

(委員)

政策3について、小諸でも高齢化が進んでいる。社会福祉協議会等の活動を引き続きお願いしたい。

【政策6について事務局から資料に沿って説明】

(委員)

施策6-1について、高齢化、人口減少が進んでいると感じている。連合でも要望を上げていただいたが、若者が行く・集まれる場所がないという状況を課題と考えている。

(事務局)

小諸版ウエルネスシティの6本の柱を掲げているが、子育て・教育は重要な柱であり、引き続き力を入れていきたい。

(市長)

イオンのようなショッピングモールを求める声もあるが、ファミリー層が移住するためには教育に力を入れることと、小諸らしさを出していくことが重要である。軽井沢から小諸に観光客が来る場合、佐久、上田にない部分を求め、そこを評価しているはずである。御代田町もそうであるように、小諸も他と差別化を図っていくべきである。東信地域はバランスが良く、他の市町村にない部分は補い、小諸にあるものを磨いていくべきであると考えている。また、小諸の学生の8割が住み続けたいという意見を持っている。

(委員)

商業も重要であるが、教育・文化・芸術の面で小諸に他と違った良さが加わってくれば、外から多くの若者が小諸に来るようになるのではないかと私も思う。

(委員)

成果指標に市民意識調査の結果が多く活用されているが、10代・20代・30代の回答率が低い。回答率が上がるように検討をすべきである。

(事務局)

若年層の回答率の低さは課題であると認識している。引き続き検討したい。

(委員)

施策6-5について、工夫や改善をしている市職員が多いと感じている。市職員の企業連携などについても、小諸市はかなり良いと考えている。MaaSやe-gの今後はどのように考えているか。

(事務局)

実証実験の結果をもって今後どのように進めていくか決めたいと考えている。多極ネットワーク型コンパクトシティであるとともに、坂のまちである小諸はe-gの相性が良い。今後、具体的に事業化について考えていきたい。

(委員)

東京都の基金は20億円になり、新型コロナウイルスの影響で全国の3分の1の基金が減ったとされている。民間企業であればうまくいった事業にお金を集中させるが、行政も例外ではない。

(コーディネーター)

社会増減の状況はよいが、教育分野が弱いように感じる。アメリカで経営が優れている会社について調査を行った結果、職員の満足度が上がると業務の成果は上がるという結果が出ている。職員を変えて、業績を上げる方法を実践してみたいか。

(4) その他

(特になし)

8 閉会

以上